

# 標準の戦略的な活用の推進について (報告)

2021年4月26日

内閣府 知的財産戦略推進事務局

# 1. 国際標準の戦略的活用の重要性の高まり

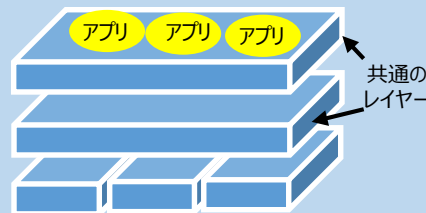
- 近年のグローバル・ビジネス競争の特徴として、
  - ・プラットフォーム上で多様なハード・ソフト技術を組み合わせ、拡張発展性のあるサービスを提供。
  - ・提供価値を実現するためのシステム構成設計(アーキテクチャー)を異分野連携で標準化し、エコシステムを形成。
  - ・プラットフォームと多様な装置・アプリ・アルゴリズムが接合できるように、インターフェースとデータ形式を標準化。
  - ・サイバー・フィジカル・システム(CPS)に基づくサービスの実現スピードが速まり、発展・変革スピードも高速化。
  - ・ネットワーク化により、ビジネス規模が急速に拡大。ネットワーク外部効果により、新規参入は困難に。
  - ・SDG's等の社会課題に照らした評価尺度を標準化することで、競争ルールを変更。
- このようなネットワーク・プラットフォーム戦略により、ゲームチェンジ、ルール形成、国際企業アライアンスにおける有利な陣取りを行って、国際マーケットにおける競争優位を確立する上で、「**標準戦略**」が**不可欠の手段**に。  
国際マーケットで、技術で優れても、競争優位を得られないとの事態を回避する、極めて重要なビジネス手段。
- 国際競争戦略として諸外国が駆使する「国際標準の戦略的活用」が、我が国でも急務**。

## デジタル化による産業構造変化 (←コロナによるニューノーマル)

### 産業構造が「ピラミッド型」から「レイヤー型」へ変化



製品・サービス、企業、業種のバリューチェーンごとに別々のピラミッド型システムが存在



製品・サービス、企業、業種が横断的な共通の「レイヤー」でつながり、大量のデータをソフトウェアで処理する、ネットワーク型システムへ

- ・ネットワーク外部性が高まり、一旦レイヤーを抑えて市場を占有すると、形勢逆転が困難。
- ・企業間の競争は、いかにレイヤーを抑え、AIを活用したソフトウェアで大量のデータを処理することでビジネス全体をコントロールするかにシフト。大幅なゲームチェンジを迫られている状況。

⇒企業戦略において「標準」「データ」の活用が圧倒的に重要に。その中で、自社の競争力の源泉を確保し、収益化していくという、高度かつ複雑な知財・標準化戦略が必要。

IoT・センサー技術、通信技術、AI技術等の革新によりモノがネットワークでつながる「サイバーフィジカル」へ競争の焦点はシフト

## 2. 国際標準の戦略的活用を推進する基本的な考え方

- 諸外国でも国際標準の形成・活用を推進。国際企業アライアンスの形成などに活用。
- 我が国としても、**主要な政策分野・ビジネス分野で、標準の戦略的な活用を浸透させることが急務。**

### 政策課題

カーボンニュートラルとグリーン成長の実現  
デジタル社会実現のためのDX（デジタル・トランスフォーメーション）の加速化  
Society5.0の実現  
ゲームチェンジが進むグローバル競争下での国際市場の確保

科学技術・イノベーション政策をはじめ、関連する政策や戦略と一体的に推進

### 官民協働での標準活用戦略の展開

#### 経営戦略としての標準活用

標準を活用した社会実装

標準を活用した国際市場の獲得

標準政策は、国際ビジネス競争や先端技術の社会実装のスピードを上げる**重要な手段**

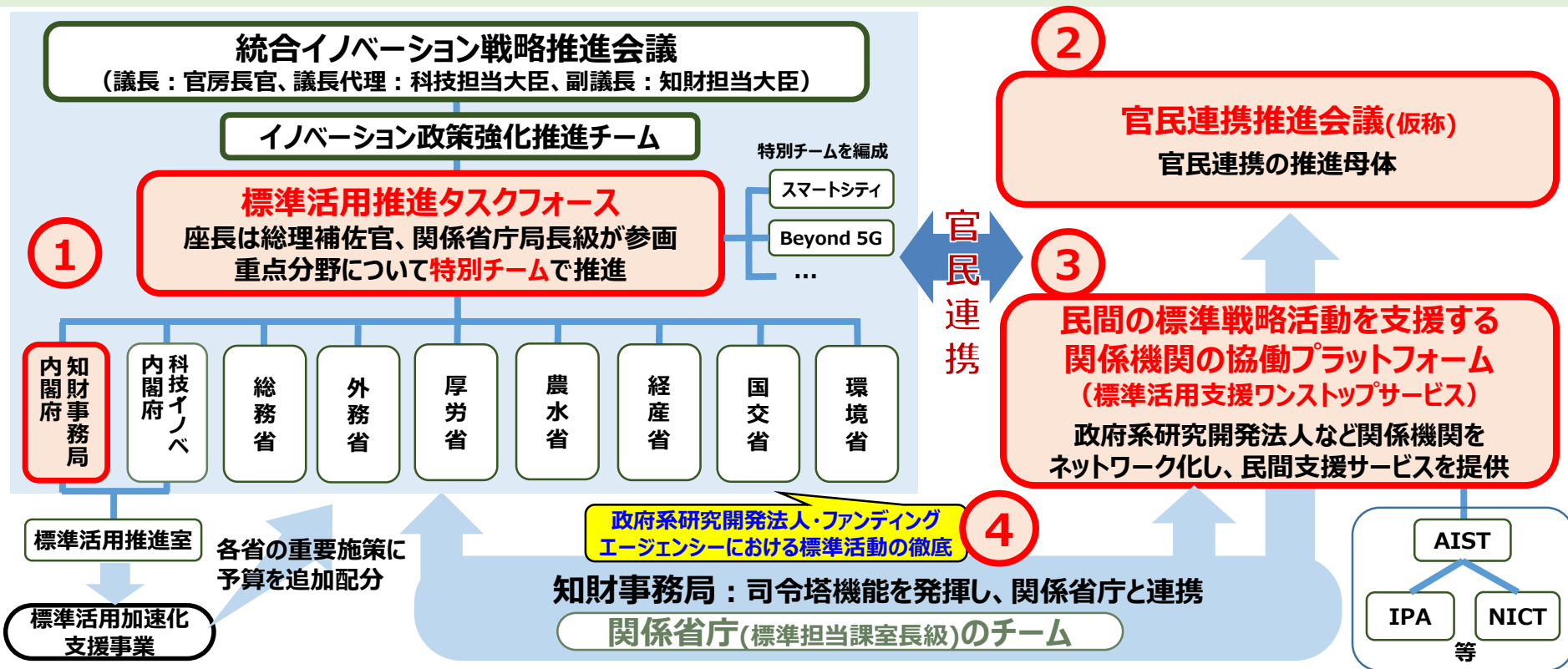
国際競争の  
トレンドに合わせ、  
**デジュール標準**  
のみならず、  
**フォーラム標準**、  
**デファクト標準**  
にも対応

### 主な施策内容の方向性

- 重点分野(スマートシティ、Beyond 5G等)で戦略的に推進。
- 政府系研究開発法人等の関係機関によるプラットフォームで、民間の標準戦略活動を支援。
- 国際コミュニティへの参画を支援。
- 官民対話の下で、経営戦略上の重要性、人材戦略の必要性等の課題認識の共有や対応強化を具体化。
- 次世代社会インフラの構築、研究開発プロジェクト等での標準戦略の強化を通じて、民間の標準戦略活動を牽引。

# 3. 国際標準の戦略的活用の推進に係る取組①

- **省庁横断で標準戦略を戦略的に推進すべき重点分野を指定。**  
→重点分野における関係省庁の重要施策を、予算の追加配分によって加速。
- **官民連携推進会議を設置し、官民対話を促進。**  
→国家戦略・企業経営戦略としての課題認識を、優れた取組や成功・失敗事例を通じて共有。
- **政府系研究開発法人など公的機関連合のプラットフォームを整備。**  
→民間の標準戦略活動を、ワンストップで支援。
- **政府系研究開発法人・ファンディングエージェンシーにおける標準支援活動を徹底。**  
→政府の研究開発プロジェクトを通じて企業に経営戦略上のコミットを求める。



# 3. 国際標準の戦略的活用の推進に係る取組②

## 1 政府における戦略性・機動性を強化する

- 省庁横断で標準を戦略的に活用すべき重点分野における**標準戦略**の推進、政府の重要な施策の**加速化支援**（**関係省庁施策への追加予算配分**）について、知財事務局が司令塔となり、関係省庁と連携して実施。  
→**第3次補正予算、令和3年度予算に計上(補正11.1億円、当初1.5億円)**
- 重点分野について、**関係省庁等が横断的に参画する特別チームを編成し、緊密に連携して機動的に対応。**
- 国際的な動向、例えばビジネス戦略、先端技術、標準活用(国際標準提案の内容の分析・評価、関係国の反応等)、海外の標準活用支援機関(コンサルファーム等)の動向等の**競争環境を把握・分析**しつつ、注力すべき領域の選定や国際的な連携のあり方等を含め、標準戦略を検討・推進。

## 2 標準活用の推進に向けた官民の意識改革を図る

- 民間経営者層をはじめ官民の意識喚起や産業界での標準活用活動の幅広い底上げを推進する場を設定。
- デジタル変革等の中に標準活用を位置づけるなど、経営視点での議論を通じての**経営戦略としての標準活用**（人材戦略を含む）の推進や、**成功事例・失敗事例等の共有**など、普及啓発促進活動等を実施。

## 3 アーキテクチャ構築や民間の標準戦略活動を支援するプラットフォームを整備する

- 諸外国と競争できるプラットフォームを我が国でも整備し、標準戦略活動を支援。
- まずは**政府系研究開発法人、ファンディング・エージェンシー等の公的機関**が連携して、それぞれの**支援サービスや機能をワンストップで提供**できる、ネットワーク化したプラットフォームを整備。

## 4 政府の研究開発プロジェクトで経営戦略上のコミットを求める

- 政府の研究開発プロジェクトで、**経営戦略上のオープン・クローズ戦略(協調領域・競争領域の設定)や標準戦略としてのコミットメントを担保する仕組みを導入**し、政府系研究開発法人・ファンディングエージェンシーにおける標準支援活動を徹底。

# 4. 重点分野における標準戦略の推進

- 国際競争環境を分析しつつ、スマートシティ、Beyond5G等、**今後の市場拡大が見込まれる重要な分野のほか、標準戦略を省庁横断で統合的に推進すべき重点分野を設定。**  
特別チームを設置して集中的に検討・推進。

## 【対象】

- ・分野横断的、複合システム的なもの
- ・新しい価値サービスを創造し(社会課題解決、社会変革促進等)、市場規模の成長性が期待できるもの
- ・国際競争上、影響が非常に大きいもの(ゲームチェンジャーで確保する市場規模大、劣後した場合の市場喪失リスク大等)
- ・政策(産業政策等)が既に立ち、担ぎ手(官民のプレイヤー)が明確なもの 等

→ **次世代社会インフラ分野、デジタル分野、グリーン成長分野、社会課題標準 等**

**現在2分野を設定(今後、対象分野を拡大)**

### スマートシティ

- 推進体制
  - ・内閣府科技部局を中心。
  - ・産学官で構成(関連施策・分野の省庁等)。
- 活動内容(案)
  - ・スマートシティ関係省庁による推進体制と連携。
  - ・必要性・優先度のある国際標準の対象等の検討。

### Beyond 5G

- 推進体制
  - ・総務省を中心。
  - ・インフラ提供側、要素技術・ユーザー側の省庁で構成。
- 活動内容(案)
  - ・総務省の「Beyond 5G新経営戦略センター」と連携。
  - ・諸外国の動向分析、国際標準化機関等への省庁横断的アプローチ、支援策・制度課題等の検討。

**関係省庁が取るべき個別具体的なアクションを標準戦略として落とし込み、内閣府の予算も活用しつつ、取組を強力に推進。**

# 5. 民間の標準戦略活動へのワンストップ支援体制の整備

(標準活用支援サービスプラットフォーム)

- 政府系研究開発法人をはじめ関連機関で、ワンストップ相談窓口を中心とした協働体制を整備し、支援サービスを提供
- プロジェクト内容や相談内容に応じ、具体的な支援体制や支援メニュー、支援サービス内容を調整
- フォーラム標準、デファクト標準、デジュール標準に幅広く対応

リスタートで体制やサービスを充実していく

